

南阿蘇村産ビールに採用

阿蘇の自然 ラベルで表現

南阿蘇村産のホップや地下水を使って製造したクラフトビールのラベルのデザインを、崇城大芸術学部デザイン学科で学ぶマレーシア出身のシャムスル・アバディ・ビン・ラムリさん(23)が手がけた。阿蘇の稜線や山肌を流れる美しい水を表現したというシャムスルさんは「今後もデザインで日本の力になりたい」と意気込む。



阿蘇山の稜線や山肌を流れる美しい水を表現したシャムスルさんデザインのビールラベル

熊本地震で大きな被害を受けた南阿蘇村の地域活性化に取り組み一般社団法人「GIAHSライフ阿蘇」の活動の一環。復興のシンボルとして同村産の原料だけを使ったビール製造に向けて、ホップの栽培棚を作ろうと、2021年にクラウドファンディングを実施。ミネラルウォーターを生産する「ハイコムウォーター」などが支援し、昨

年2月に栽培棚が完成した。

ビール製造に協力した「みなみ阿蘇ビール」の取締役で同法人メンバーである内田英喜さん(62)は「若い世代とも協力したい」と、崇城大にラベルのデザインを依頼。同大のコンペに参加した学生5人は、ホップのつみ取り体験などを体験してデザイン制作に挑んだ。シャムスルさんのラベルを使った「ハイコムウォーター」への返礼品用に限年で500本作られたという。

宗教上の理由でビールを飲んだことがないというシャムスルさんは、採用されたデザインを含め計9案を考案。「知らないことを言い訳にするのは違うと思い、全ての力を出し切った」と喜びを語る。選考にも携わった内田さんは「5人の作品はどれも想像以上の出来だったが、特にシャムスルさんの作品には熱量を感じた」と話している。(縮方季咲)

ビールラベルをデザインした崇城大芸術学部デザイン学科4年のシャムスルさん(左)とみなみ阿蘇ビール取締役の内田英喜さん＝熊本市西区

